

# 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

## 応募者に関する情報

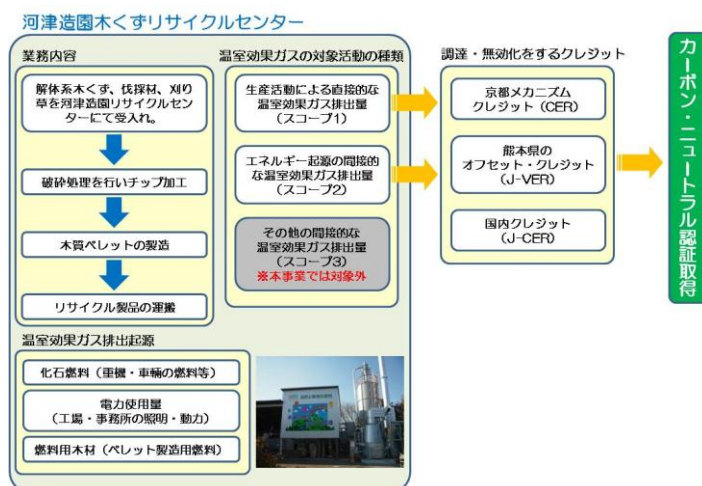
記入日： 年 月 日

応募者情報	
応募 団体名	(フリガナ) カワヅゾウエンカブシキカイシャ
	(団体名) 河津造園株式会社 ※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。
応募 担当者 連絡先	団体名： 河津造園株式会社
	所在地： 〒862-0938 熊本県熊本市東区长嶺東3丁目4-40
	部署名： 営業部
	役職名： 営業課長
	氏名： 岩崎 敏夫
	TEL： 096-289-6444      FAX： 096-289-6445
	E-Mail： gogo_woodtip_3680@leaf.ocn.ne.jp
ホームページ	<a href="http://www.kawazuzouen.co.jp/">http://www.kawazuzouen.co.jp/</a>

### 応募団体の主たる事業

造園業を経営する中で、工事の支障木や剪定等による樹木が産業廃棄物として取り扱われている事に疑問を持ち、もったいない精神と地球環境保全を目的にリサイクル事業を開始した。

その中で地球環境に優しいバイオマス燃料の製造を行っている。



## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

### 応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : [http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry\\_data1st.html](http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data1st.html)

#### 1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

地域の森林資源を有効活用するバイオマス燃料製造におけるカーボン・ニュートラル事業

#### 2. カーボン・オフセット活動の概要

##### <カーボン・オフセットの分類>

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

##### 【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類

<http://www.jcs.go.jp/pdf/document/kijun.pdf>

##### <カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

主要事業所（木くずリサイクルセンター）の生産活動における CO2 をスコープ1、2において国内クレジット、京都メカニズムクレジット及びオフセット・クレジットを用いて、カーボン・ニュートラル認証の取得を目指す。

##### <カーボン・オフセットの取組の実施期間>

2010年6月1日から2011年5月31日までの自己活動を国内クレジットによりオフセット⇒応募資格無  
2011年6月1日から2012年5月31日までの自己活動を国内クレジット、京都クレジット、  
オフセット・クレジットによりカーボン・ニュートラル⇒応募資格有

## <カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

[自社 HP] <http://www.kawazuzouen.co.jp/>  
パンフレットの作成

### 3. 1次審査項目

#### ①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

##### (自己活動オフセット支援の場合)

①-1 主要事業所(木くずリサイクルセンター)の生産活動におけるCO<sub>2</sub>をスコープ1、2において国内クレジット、京都メカニズムクレジット及びオフセット・クレジットを用いて、カーボン・ニュートラル認証の取得することにより、2011年6月1日から2012年5月31日までの1年分に当たる 428t-co<sub>2</sub>

#### ②排出削減努力の実施

- 節電    節水    廃棄物の減量化    省電力機器の導入    公共交通機関の利用・呼びかけ  
 その他(バイオマスボイラー1台の導入、太陽光発電16kwの導入、次世代自動車2台の導入)

#### ③オフセットの手続き

##### <カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

クレジット合計 428t-CO<sub>2</sub>  
CER (200t 46.7%)、J-VER (20t 4.7%)、国内クレジット (208t 48.6%)

##### <カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

CER: SRGEL エネルギー源バイオマス発電プロジェクト(国連登録番号 0546)  
J-VER: 熊本県県有林による間伐を用いた温室効果ガス吸収事業  
小国町町有林による間伐を用いた温室効果ガス吸収事業  
国内クレジット: 泉力の湯におけるバイオマス焚きボイラの新設事業

##### <カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

CER: SRGEL エネルギー源バイオマス発電プロジェクト(国連登録番号 0546) ⇒ 2012年10月31日 償却  
J-VER: 熊本県県有林による間伐を用いた温室効果ガス吸収事業 ⇒ 2012年9月11日 無効化  
小国町町有林による間伐を用いた温室効果ガス吸収事業 ⇒ 2012年12月28日 償却予定  
国内クレジット: 泉力の湯におけるバイオマス焚きボイラの新設事業 ⇒ 2012年12月28日 償却予定

## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

### 応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : [http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry\\_datalist.html](http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html)

#### 1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

##### ①CO2 排出削減努力の項目

###### ①運用改善による削減

###### 1.環境マネジメントシステム

・エコアクション21の認証取得（平成19年11月19日）

###### 2.照明

・昼休み時間の消灯  
・便所や応接室等の使用以外の完全消灯

###### 3.空調

・夏場の事務室は29℃に設定  
・冬場は、薪炊きストーブを使用

###### 4.運搬

・運送会社の帰り便を利用してチップの運搬、配送

###### ②設備投資による削減

###### 1.太陽光発電の導入

・6kw 平成20年7月設置  
・10kw 平成22年2月設置

###### 導入効果

・6KW年間発電量 平成23年 4,942KWh  
・10KW年間発電量 平成23年 8,390KWh  
平成23年 13,332KWhの削減

###### 2.バイオマスボイラーの導入

平成21年9月

年間木材使用量456tにて、8,345GJ/tの削減  
同等の重油ボイラーと比較すると 190KL重油削減

###### 3.電気自動車の導入

平成23年2月

年間走行距離 平成23年度 18,750km  
ガソリン車の燃費を15km/Lと仮定すると1,250L削減

###### 4.ハイブリッド自動車の導入

平成23年3月

年間走行距離 平成23年度 24,000km  
ガソリン車との燃費差を10km/Lと仮定すると640L削減

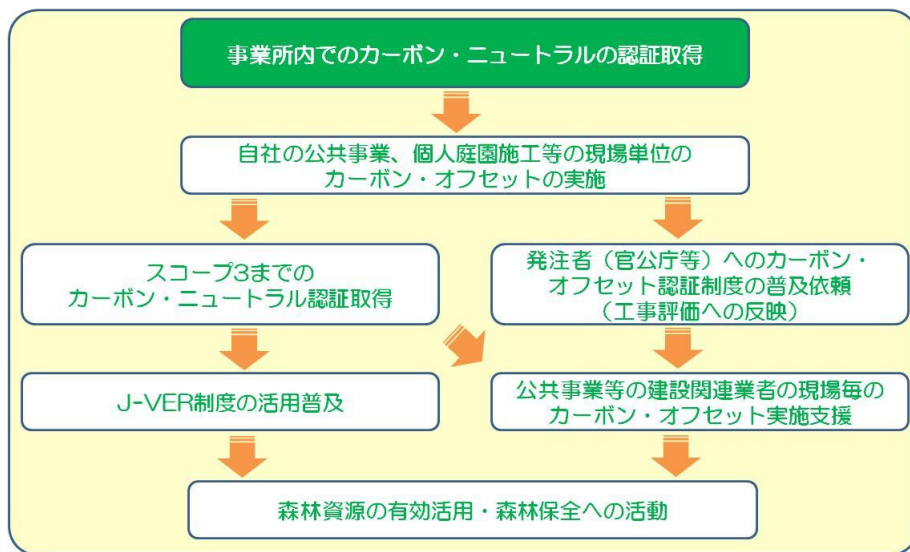
##### ②CO2 排出削減努力についての関係者の理解と協力

当社は、バイオマス燃料（ペレット）を使用する温泉施設（削減事業者）と国内クレジットの共同実施者となり、CO2 削減量を購入している。

#### 2. カーボン・オフセットの内容

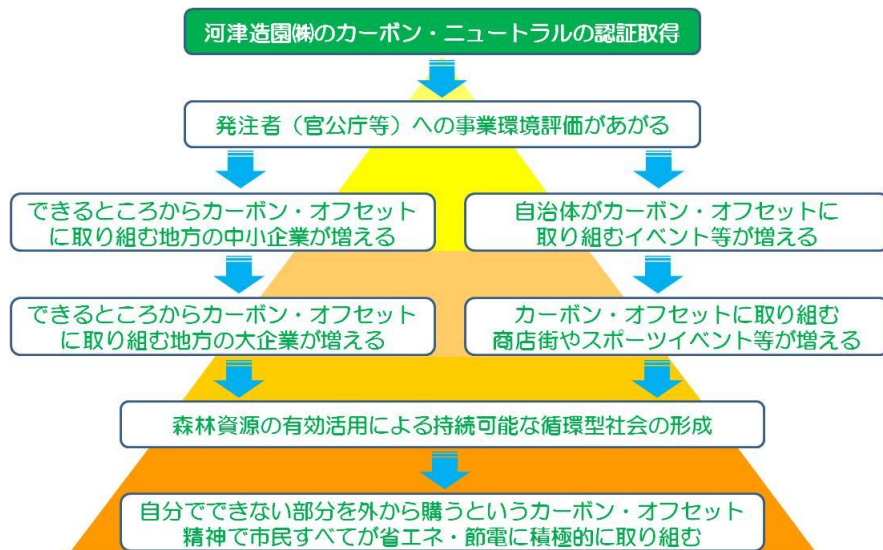
①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果。

②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについて。



### 3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献  
⇒ 森林の間伐や管理による J-VER にて、オフセット（購入）することにより山林へ資金がながれ、森林管理が推進される。このことは、災害防止や、水や、大気の保全にも貢献することになる。
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第 1 次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献



- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献  
⇒ 当社が取り組むバイオマス関連（インド）の京都クレジット（CER）の購入することで国際貢献と考える。また、このバイオマス発電所への見学ツアー等も検討中である。

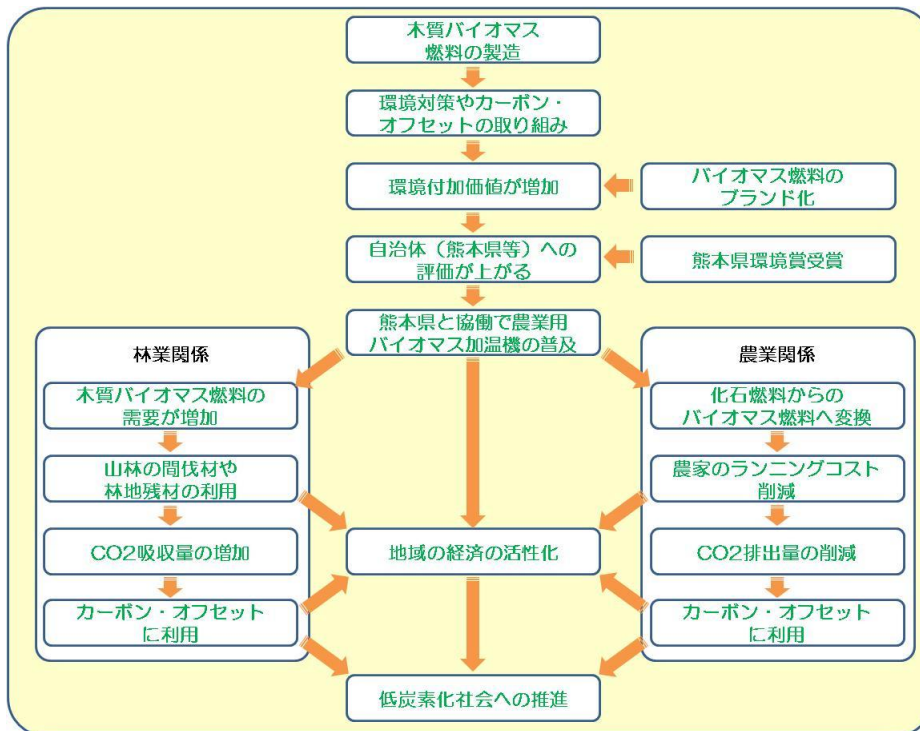
### 4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫。  
⇒ バイオマス燃料製造過程の CO2 をオフセットし、ニュートラルとする事で、環境付加価値が付き品質の改良も加えて「ブランド化」を進めている。この事で販売数量が、倍増している。  
⇒ 京都クレジット（CER）以外のクレジットは、すべて地元（熊本県）で削減したクレジットを使用することで、CO2 の地産地消をアピールした。
- ②人々や社会に与えた影響  
⇒ 地方の中小企業では、自治体（熊本県・小国町）の J-VER をつかってのオフセットにて、カーボン・ニュートラル制度の認証を受けることが話題となり、報道機関等で報道されたり、地方の経済誌（熊本経済等）に掲載されて、市民から問い合わせが多かった。  
⇒ 建設業や造園業では、地産地消のカーボン・オフセットに取組みが増えつつある。  
⇒ 熊本県は、環境負荷のついたバイオマス燃料の重要性を認識し、県内のハウス農家（加温のハウス面積が日本一）に補助金を出して、ハウス用バイオマス加温器を今年度 60 台導入をし、再来年度も 100 台の導入を計画している。

## 5. ストーリー性

①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。  
 ⇒ カーボン・オフセットに取り組むことにより、CO2も循環しているということに気づき、地球温暖化のシステムを知る機会になった。  
 又、カーボン・オフセットをすることにより、より省エネ推進を自覚し、節電等の取組みにも積極的に取り組むようになった。

②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫。  
 ⇒ 省エネ推進による削減方法、削減数値、削減金額をHPや環境活動レポート等で発表する。



以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

## 第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局  
 （担当：入山、井上）  
 〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7階  
 電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145  
 E-Mail [award@carbonoffset-network.jp](mailto:award@carbonoffset-network.jp)